カトリック新聞

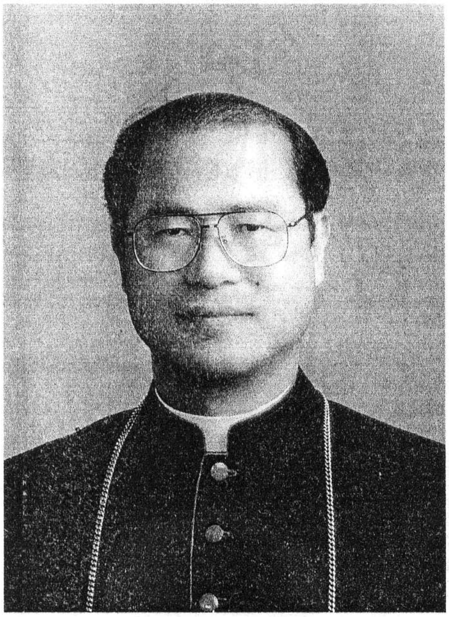
カトリック新聞社
〒135-8585 東京都江東区潮見
2丁目10番10号
電　話（03）5632-4432（代表）
（03）5632-4435（編集）
（03）5632-4434（広告）
ＦＡＸ（03）5632-7030
振替口座00170-4-196983番
Eメール 営業　eigyo@cwjpn.com
購読 kodoku@cwjpn.com
URL：www.cwjpn.com/cwjpn/
©カトリック新聞社　2008
売価１部 158円（本体 150円）
予約購読料金（国内）
１年（48回）9480円消費税〒込
半年（24回）4740円消費税〒込

福岡教区司教決まる

大分の宮原司教を任命

「神のみ旨　真摯（しんし）に受ける」

教皇ベネディクト十六世は、福岡教区の第六代司教として大分教区の宮原良治司教（52）＝写真＝を任命した。ローマ教皇庁が三月十九日発表した。着座式の日程は未定。福岡教区は松永久次郎司教が二〇〇六年六月に急逝して以来、司教座空位が続いていた。任命によって宮原司教は大分教区司教ではなくなったが、教会法の規定により、着座するまでの間は大分教区を管理する。



宮原司教は発表翌日の二十日、「教皇様の決断は聖霊に促されてのものでしょうから、その重みがあります。その指示の中に神のみ旨をいつも見つめなければなりません。真摯（しんし）に受け止めたい」と抱負を語り、続けて「行く先々で神様の求めるものに応えていくのが召命の常なる歩みです。その中に神様の望みが展開していくでしょう」との決意を述べた。

また大分教区を去ることについて宮原司教は、「正直、人間的にはいろいろな思いはあります」と話す。後任についても、「私だからできることもあるし、できないこともある。司教職は世の終わりまで続くものですが、誰がやるかは別問題。次の方が早く決まって、大分の地で素晴らしいことをもっとやってくだされればうれしいです」と願っている。

宮原司教は一九八二年三月、長崎教区司祭に叙階。ローマの教皇庁立ウルバノ大学で教会法を学び、長崎教区の法務代理などを務め、二〇〇〇年五月十日、平山高明司教の後任として大分教区司教に任命、同年十月一日、司教に叙階された。

「うれしい　でも大分を思うと…」

福岡教区の教区管理者を務めてきた川上惣一神父（同教区）は、新司教の決定を受けて、「〝うれしい〟の一言です。教区民一同、新しい司教様を待ち望んでいましたから」と喜びを語った。

その一方で同神父は、「自分も管理者でしたので、大分教区のことを思うと、とても忍びないです。教区司教がいない悲哀や困難を感じてきましたから」と語り、「その分、これからは教区一丸となって頑張らなければいけません。でも私も（管理者としての）重荷が下ろせるので、正直言ってほっとしています」と感想を述べた。

転任続く

福岡教区は一九二七年、長崎教区から福岡、佐賀、熊本、大分、宮崎の五県が分かれてできた。後に大分・宮崎両県が独立し、使徒座知牧区となった（現在の大分教区）。

同教区では一九四四年五月の深堀仙右衛門司教以来、同教区司教の叙階は行われていない。平田三郎司教（六九年着座）は大分教区から、松永司教（九一年着座）は長崎教区からの転任だった。

2008年4月『祈祷の使徒』意向

【一　般】希望と平和の源・キリストの復活
【宣　教】未来の司祭の養成
【日本の教会】司祭職と奉献生活への召命のために祈る
※４面記事参照

100周年迎えた西仙台教会

共同

集

「共同宣教司牧
地区が増えている
中、当惑する声も
て信徒間の交わり
感じている人もい
では一九九一年、
の司祭が共同して
当たる体制に移り
そこに西仙台教会
同教会の今を取材

「角五郎丁（つのごろうちょう）教会」の名で始まり、ことし設立百周年を迎えた西仙台教会で三月十五日、記念ミサが